

下関西高校へ入学した君たちへ、学年末考査も終わり今年度も残り2週間となりました。一昨日は高校入試の合格発表日でしたが、君たちも2年生として後輩を迎える日が間近となりました。また、卒業した3年生の国公立大学後期試験が終わりましたが、その準備に向けて登校していた生徒の姿を学校で見かけた人もいたかと思います。普通高校ではよくある光景ではありますが、卒業後も制服を身にまとい真剣に頑張る姿はとても凛々しく見えました。合否の結果は自分でコントロールできませんが、目標に向かって良い準備をすることはコントロールできますし、やらなければいけないことです。君たちも2年後、受験を終えたときに「やりきった!」と強く思えるように、まだ1年生ではなく、もう2年生だという意識で学習に取り組んでください。

さて、今回は「胆力」という言葉について触れましたが覚えていますか。これは**どんな時でも平常心を失うことがなく、どっしりと構えていられる能力**だと書きましたが、今回もこの言葉について説明したいと思います。まず、**胆力がある人の特徴**として「**何事にも確固たる信念を持って取り組み、心にしっかりとした芯を持っているため、どのような状況におかれてもブレない**」「**失敗したい挫折したいしても言い訳したり、人のせいにはしやせず、自分の信じた道を突き進もうとする**」「**底力を持ち、立ち止まらずに努力を続ける**」「**何事に対しても前向きに捉え、良い結果になることを常にイメージしているポジティブなメンタルを持っている**」「**より高い場所を目指す向上心がある**」などがよくあげられますが、これらをすべて備えている人はめったにいないと思いますし、君たちもそのことを要求されると苦しくなるでしょう。もちろん、私も胆力を十分に持っている人になりたいという気持ちはありますが現実にはほど遠いです。ただ、お互いにこれらのうち、一つでも達成しようと努力することはとても大切なことだと思います。そして、その実現に向けて何をすべきか考えて行動することが必要だと考えています。逆に胆力が不十分な人は、ある程度のレベルに達したら、その状態を守ろうとする意識が働き、リスクを抱えてまで成長したいとは考えず、現状の悪化を防ぐことに注視しがちですが、そのような考え方を若い君たちにして欲しくないです。だから、**リスクを恐れず高みを目指すために、多少のリスクを負うことも必要だと理解し、それに向けて「やってみなければ分からない」「たとえ失敗しても何とかなる」という考えを持ち、「とにかく動いてみる」という西高生であって欲しいと思います**。また、**胆力**について学習面に焦点を当てると**胆力**がある人は**問題を考える時にひらめきを得やすい**と言われていています。胆力がある人は向学心が旺盛で、必然的に豊富な知識やスキルを備えているので、アイデアを生み出すための引き出しが多く持てます。そして、周囲の新しい意見も主体的に取り入れ自分の知識として蓄えていくので、元々持っている知識やスキルと新たな情報が相乗効果を生み出し、次々とひらめきを得ていくのです。では、**胆力を鍛えるための有効な方法**にはどのようなものが考えられるのでしょうか。それは「**新しいことにチャレンジする**」「**高い目標を掲げる**」「**多角的な視点を意識する**」「**視野を広げるために読書をする**」「**人の真似をする**」などがよく挙げられています。その中で特に「**読書**」については、この通信でも君たちに奨励してきましたが、**新書などを沢山読んで、多くの人を持つ考え方や価値観を広げることが視野を広げることに間違いなく繋がります**。特に自分の考え方や価値観を疑いながら読書をすることで、**より多くの知識を素直に吸収できるようになり、胆力が鍛えられる**と考えています。また、「**人の真似をしてみる**」も良い方法だと思います。文章表現力を高めようとしたら、小説家や作家の名文を書き写してみる。これは定番の上達方法ですが、真似ることにより、その作家独自の「型」を実感することができます。その「型」と自分がもともと保持している「型」を合わせていくことで、次の新しい自分の「型」が生み出されてきます。これが独創性です。まず「型」があり、これを破っていくのが「型破り」で、その「型破り」が独創性に繋がっていくのです。だから、最初に「型」がなければ「破る」こともできません。これを「形なし=かたなし」といいます。「形なし」の意味は、「本来の価値が損なわれ、何の役目もしなくなる・こと」で

(次ページへつづく)

「台無し」と同じ意味です。だから、最初に型をもつためには、真似ることが必要です。さらに、胆力がある人の言動を観察して真似をしてみるのも、胆力を鍛える良い方法だと思います。**周囲に胆力のある人がいると思えば、その人のそばにいる時間を増やしてみてもいいかでしょうか。**その人に、自分にはない考え方があると気づいたら、それが自分の胆力を上げるための大きな要素になると考えてみてください。だから、積極的に真似をしてみましょう。

さて、胆力について、私は**内田樹氏**から学んだと書きましたが、彼の胆力についてのアドバイスは「**普段から日常の色々なことに細かく驚きなさい**」という意外なものでした。**人間の脳と同レベルのAIが誕生する時点を表す言葉としてシンギュラリティ(技術的特異点)**が最近、話題になり、「これからは時代の変化に最適化した方がいい」というふうにして浮足立っている風潮があるが、それは危険なことで、むしろ浮足立ってはいけないと述べています。その理由は人が慌てたり、焦ったりという精神状態で下した判断はだいたい間違ふからだそうです。「テクノロジーの進化なんかどうだっていいじゃないか。それはそれ、これはこれ」という腹の括り方をしていた方がいい。そうしておかないと、この先ずっと回し車の中を全力疾走するハムスターのような生き方をしなければなくなる。だから、社会全体が浮足立っているときに必要なのが**胆力**だという話で、内田流の胆力の定義は「**驚かされないこと**」だそうです。いざという危機に臨んだ時に肝をつぶして、白目を剥いて、腰を抜かさないように、普段からこまめに驚いていけばいいそうです。お互いに日々、周囲の様々な出来事や風景の変化に驚いていきましょう。また、**大学入試のトレンド**となっている**内田樹氏**の文章は「**難解**」と言われており、ご本人も自覚されているようですが、彼の場合は使われる言葉の難しさに原因があるようです。特に、高校生にはなじみの薄い「カタカナ語」が多用されており、私もその意味が理解できずに文章の書かれている内容が読めない時があります。それが、私は読書の時なので、そこで調べれば問題はないですが、大学入試の試験問題として出題されたときの受験生にとっては簡単ではありません。会場では辞書やスマートフォンでの検索は許されません。だから、その対策は受験**勉強の段階で「語彙」を習得しておくこと**しかないのです。君たちには普段の学習や日常生活の中で日本語を習得することをもっと意識化して欲しいと思います。君たちの中で英単語帳を持っている人はよく見かけますが、日本語の単語帳や国語辞典を持っている人を見かけたことはほとんどありません。しかし、授業中に内田氏が使うような馴染みの薄い語彙について質問すると、的確な答えがなかなか出てこないことが多いです。未知の語彙が出てきたときにそのままにせず、調べる習慣をつけることが重要で、これは全ての教科の学習に通じる方法だと思います。また、内田氏自身がブログで「私は何より論理的に書くことを心がけています。手に入る限り論拠をあげる。できるだけ喩え話を駆使して話をカラフルに表象するのです。」というようなことが書かれた文章を読んだことがあります。内田氏の文章を理解するためには書かれている喩え話が何のための例示かその目的を読解すると同時に、どこが彼の主張の部分かをしっかり判断する読解ができるようになることが大切です。難しいから避けるのではなく、できるだけ多く、彼のような書き方の文章を読むことで君たちの読解力を高めてください。慣れてくるとそれぞれの文章の持つ「リズム」に乗れて、読みやすく感じるようになります。それを習得することで、自分が人に考えを表現する時、どうすれば上手く伝わるかを学び、手本にすればいいと思います。

では、以上で今年度の進路通信を閉じたいと思います。君たちにとっては文字だらけの通信は慣れておらず、読むのがとても面倒くさかったと思いますが、敢えて文字だらけのフォーマットにしたのは君たちに読むことで少しでも読解力向上の一助になればと考えたからです。内田方式も真似したつもりでしたが空回りでした。しかし、伝えたいことはそれなりに書いたつもりなので、読んでくれた西高生の中で何かを感じてくれた生徒が一人でもいてくれたならありがたいです。1年間お世話になりました。来年度の更なる飛躍を期待しています。

(文責・進路指導部・松村)